



世界文化遺産

# 斎場御嶽

せー

ふあ

う

たき

## 入館時間のお知らせ

TEL/FAX : 098-949-1899

開館時間

3月～10月 9:00～18:00  
(最終チケット販売17:15/最終入館17:30)

11月～2月 9:00～17:30  
(最終チケット販売16:45/最終入館17:00)

休日や臨時休館日等は公式サイトで  
ご確認ください。



記念スタンプ



## 聖地を訪れる方へのお願い

### 敬う心構えで

聖地は祈りの場所だということを忘れないで  
ください。

### ガイドとともに回ることをお勧めします

沖縄独特の祈りの文化を知るために、ガイド  
をご利用ください。(有料)

### 祈りをさげないでください

拝みをしている人たちにみだりに声をかけたり、  
写真を撮ったりしないでください。

### 聖地内にあるものを持ち出さない

石や動植物を記念に持ち帰らないでください。

### 香炉は神聖な物です

拝所に据えられた四角い  
石を香炉といい、この上  
にお線香を置いて神に祈  
ります。座ったり物を置  
いたりしないでください。



駐車場は南城市地域物産館前及び岬公園を  
ご利用下さい。

●住所/南城市 知念 字久手堅539



一般社団法人 南城市観光協会  
TEL:098-948-4660



琉球開びやく伝説にもあらわれる

琉球王国最高の聖地

沖縄県  
南城市

## 斎場御嶽とは

御嶽とは、南西諸島に広く分布している「聖地」  
の総称で、斎場御嶽は琉球開びやく伝説にもあら  
われる、琉球王国最高の聖地です。また、琉球  
国王や<sup>きこえおきみ</sup>間得大君の聖地巡拝の行事を今に伝える  
<sup>あがりうまい</sup>「東御廻り」の参拝地として、現在も多くの人々か  
ら崇拝されています。

御嶽の中には六つのイビ(神域)があります。  
琉球国王はこの六ヶ所を参拝しながら、国家繁栄・  
安寧、五穀豊穰、航海安全などを神に祈願しました。

はるかなる琉球王国時代、国家的な祭事には  
聖なる白砂を「神の島」といわれる久高島から特  
別に運び入れ、それを御嶽に敷きつめました。そ  
の中でも、最も大きな行事が、間得大君の就任式  
である「<sup>おあらうり</sup>御新下り」でした。

# 齋場御嶽 六つの拝所



**2 寄満(ユインチ)**  
寄満とは、王府用語で「台所」を意味します。ここで調理をしたわけではなく、貿易の盛んであった当時の琉球では、世界中から交易品の集まる「豊穰の満ち満ちた所」と解釈されています。



**1 大庫理(ウフゲーイ)**  
御門口から登っていくと左手に見える最初の拝所です。大広間や一番座という意味を持っており、前面には、石畳の敷かれた祈りの場(ウナー)があります。



緑の館・セーフア

入口



公園

砲弾池

出口

郵便局

知念岬公園

P

♀

♀

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂

♂



**3** アマダユルアシカヌビーの壺  
**4** シキヨダユルアマガヌビーの壺  
二本の鍾乳石から滴り落ちる「聖なる水」を受けるため、二つの壺が据え置かれています。



**御門口(ウジョウグチ)**  
**久高島遥拝所**  
久高島遥拝所 御門口(ウジョウグチ)  
御嶽内へ入る参道の入口です。右側には、六つの香炉が据え置かれています。これは御嶽内にある拝所の分身とされています。



**5** 三庫理(サンゲーイ) **6** チョウノハナ  
三角形の空間の突き当たり部分は三庫理。右側の岩の上がチョウノハナで、それぞれが拝所となっています。

ウローカー  
琉球王朝時代、齋場御嶽に入る際に、ここでみそぎをしました。  
※足元にご注意下さい。

与那原町

安座真港へ (→久高島へ)  
あざま サンサンビーチへ

**P** 南城市地域物産館(入場券売場・無料駐車場)  
【展示・上映室のご案内】(入館料無料)  
齋場御嶽内部を忠実に再現した映像や、写真・解説等を交えた展示パネルによる紹介をはじめ、三庫理(サンゲーイ)から出土した金製勾玉(複製品)の展示を行っています。



## 発掘調査で確認された三庫理前の排水溝



発掘調査の結果、様々な遺構が確認できました。石畳の参道の下をくりぬける排水溝や、祈りの場を清めた白砂の堆積などです。  
さらに、重層的な遺構から重要な儀式のたびにこの場所を整備してきた様子などがわかってきました。

## 齋場御嶽出土品(国指定重要文化財)



齋場御嶽からは、中世から近世までの様々な資料が出土しました。特に注目されたのが金製を含む勾玉や、中国の青磁器・銭貨などが一括して見つかったことです。御嶽という聖地の、最も気高い三庫理からの出土は、当時の琉球信仰を考える極めて貴重な資料です。

## 用語解説

あがりうまい  
**東御廻り**

琉球の創世神アマミキヨが渡来し、住みついたと伝えられる知念・玉城の聖地を巡拝する行事。  
首里城から見て、大里・佐敷・知念・玉城を東四間切(あがりゆまざり)または東方(あがりかた)といったことから、知念・玉城の拝所巡礼を(東御廻り)と称した。

おあらうり  
**御新下り**

聞得大君が最高神職に就任する儀式。首里における儀礼を終え、いくつかの要所を経て、知念間切(ちねんまざり)にある齋場御嶽に入り、数々の儀式を執り行った。聞得大君は、聖水を額に付ける「御水撫で(うびいなでい)」の儀式で神霊を授かり、神と同格になったといわれる。

きこえおきみ  
**聞得大君**

聞得大君とは「最も名高い神女」という意味で、琉球の信仰における神女の最高位の呼称。琉球王国最高位の権力者である国王と王国全土を霊的に守護する存在とされた。そのため、国王の姉妹など王族の女性が任命された。  
初代(1470年)から15代(1875年)までの400年余りにわたって、琉球王府の神事を担った。

くだけじま  
**久高島**

琉球王朝時代から数々の神事が行われており、「神の島」と呼ばれる。琉球開びやくの祖アマミキヨが天から降りて最初につくったとされており、五穀発祥の地ともされた。歴代の琉球国王は17世紀まで2年に1回、久高島参詣を欠かさなかった。  
12年に1度、午年(うまどし)に行われる神事・イザイホーに代表される神秘的な神事が行われていたため、民俗学的に貴重な島として注目されている。